

平成21年5月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年1月14日

上場会社名 シンワアートオークション株式会社
 コード番号 2437 URL <http://www.shinwa-art.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 陽一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 益戸 佳治
 四半期報告書提出予定日 平成21年1月14日

上場取引所 大

TEL 03-3569-0005

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年5月期第2四半期の業績(平成20年6月1日～平成20年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年5月期第2四半期	517	—	△96	—	△94	—	△95	—
20年5月期第2四半期	932	△29.1	168	△7.8	171	△6.4	93	△13.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年5月期第2四半期	△1,670.63	—
20年5月期第2四半期	1,613.50	1,612.58

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年5月期第2四半期	2,100	1,674	79.7	30,075.41
20年5月期	2,318	1,974	85.2	34,181.89

(参考) 自己資本 21年5月期第2四半期 1,674百万円 20年5月期 1,974百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭				
20年5月期	—	—	—	2,500.00	2,500.00
21年5月期	—	—	—	—	—
21年5月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 有

3. 平成21年5月期の業績予想(平成20年6月1日～平成21年5月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,053	△35.0	△148	—	△146	—	△149	—	△2,643.08

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をごらんください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年5月期第2四半期 57,870株 20年5月期 57,870株

② 期末自己株式数 21年5月期第2四半期 2,204株 20年5月期 98株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年5月期第2四半期 57,443株 20年5月期第2四半期 57,851株

* 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年7月11日に公表いたしました業績予想のうち、通期について本資料において修正しております。

2. 本資料に記載しております業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報をもとに当社が判断した仮定や予想に基づいたものであります。従いまして業績予想は様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績はこれらの予想数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期（平成20年9月1日～平成20年11月30日）におけるわが国の経済は、米国サブプライムローン問題に端を発したいわゆるリーマン・ショックによる世界的な金融危機、景気後退懸念から、株価の下落、急激な円高進行により企業業績は悪化し、雇用情勢への影響も懸念され、景気後退局面が鮮明となっています。

このような環境の下、当社は「忍と攻」のキーワードを掲げ、高額美術品を中心とした優良作品のオークションへの出品及び富裕層を中心とした美術品コレクターのオークションへの参加促進に努めてまいりました。また、アジアへの展開を強化することを目的として、11月にはマカオにおいて、韓国・台湾・シンガポールのオークションハウスと共同で、Asian Auction week in Macaoと題してアジアを中心としたコンテンポラリー作品を一堂に集めたオークションを開催し、日本国内だけにとどまらない活動を行ってまいりました。しかしながら、美術品取引市況も、世界規模で急速に悪化しており、そのスピードは予想をはるかに上回るものとなりました。当社業績におきましては、出品点数の減少に加え、落札率の低下・落札金額の伸び悩みと非常に厳しい状況となりました。

その結果、当第2四半期会計期間は、取扱高1,231百万円、売上高335百万円、経常利益0百万円となりました。当第2四半期のオークション開催数は11回でありましたが、落札率は85.2%と第1四半期の90.8%より低下いたしました。利益面につきましては当初予測に対し大幅な未達となり、第2四半期累計期間では経常損失となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状態の変動状況

当第2四半期会計期間末におきましては、総資産は2,100百万円となり前会計年度末より217百万円減少いたしました。これは主に法人税、配当金の支払による現金及び預金の減少によるものであります。また現預金は、オークション未収入金、商品、前渡金の増加に伴って減少しております。負債は426百万円と前会計年度末より82百万円増加いたしました。これは主にオークション未払金の増加によるものであります。これは第2四半期会計期間末に近い11月28日にオークションの開催があり、オークション未収入金、オークション未払金ともに増加したものであります。また純資産は1,674百万円と平成20年5月末より300百万円の減少となりました。これは主に当四半期累計期間の純損失95百万円と平成20年5月期の配当金支払144百万円と自己株式の取得60百万円によるものであります。これにより第2四半期会計期間末の自己資本比率は5.5ポイント減少し、79.7%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は前会計年度末より768百万円減少し、579百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は497百万円となりました。これは主にオークション未収入金の増加による減少201百万円とたな卸資産の増加による減少202百万円と税引前当期純損失94百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、67百万円となりました。これは貸付による支出31百万円と定期預金の預入・払戻による支出30百万円及び保証金の差入による支出5百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、203百万円となりました。これは配当金の支払143百万円と自己株式の取得60百万円によるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当第2四半期の売上高は当初計画を大きく下回る水準で推移しており、国内富裕層に対する営業の掘り下げ、アジアを中心とした海外への営業活動をより強力に展開してまいりますが、下期につきましても美術品オークションの売上高の回復は厳しいと考えられ、下期の予想売上高を319百万円引下げて、通期で1,053百万円を見込んでおります。

利益面におきましては、経費削減等経営の合理化を図り、損益改善活動に全力で取り組んでおりますが、急激な変化に現時点では追いつかず、前回発表しました売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の通期業績予想を下回る見通しであります。

なお、平成20年7月11日に発表しました通期の業績予想との差異は以下の通りです。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,909	215	218	109	1,887.71
今回修正予想 (B)	1,053	△148	△146	△149	△2,643.08
増減額 (B - A)	△855	△364	△364	△258	△4,530.79
増減率 (%)	△44.8	—	—	—	—
前期実績	1,621	194	201	98	1,697.53

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

棚卸資産の評価基準及び評価方法の変更

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、第1四半期会計期間より、評価基準については個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。これにより、当第2四半期累計期間の営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失は、それぞれ340千円損失が増加しております。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年11月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	977,398	1,715,593
売掛金	8,055	-
オークション未収入金	353,822	152,136
商品	335,312	133,287
前渡金	182,673	137,762
繰延税金資産	13,371	13,799
その他	83,298	26,116
貸倒引当金	657	8,349
流動資産合計	1,953,275	2,170,345
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	46,471	52,701
車両運搬具(純額)	3,331	4,085
工具、器具及び備品(純額)	4,717	5,734
有形固定資産合計	54,520	62,521
投資その他の資産		
繰延税金資産	24,152	23,938
その他	76,873	61,616
貸倒引当金	8,189	-
投資その他の資産合計	92,836	85,555
固定資産合計	147,357	148,076
資産合計	2,100,633	2,318,421
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,184	1,698
オークション未払金	291,437	192,436
未払法人税等	4,224	12,800
賞与引当金	21,883	21,836
その他	73,276	81,668
流動負債合計	392,005	310,440
固定負債		
退職給付引当金	34,450	33,225
固定負債合計	34,450	33,225
負債合計	426,455	343,665

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成20年11月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	779,000	779,000
資本剰余金	383,875	383,875
利益剰余金	582,009	822,404
自己株式	70,706	10,524
株主資本合計	1,674,178	1,974,756
純資産合計	1,674,178	1,974,756
負債純資産合計	2,100,633	2,318,421

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年6月1日 至平成20年11月30日)
売上高	517,210
売上原価	176,817
売上総利益	340,393
販売費及び一般管理費	436,564
営業損失()	96,171
営業外収益	
受取利息	1,931
受取査定報酬	484
受取保管料	476
その他	786
営業外収益合計	3,678
営業外費用	
為替差損	2,195
その他	94
営業外費用合計	2,289
経常損失()	94,783
特別利益	
未払配当金戻入益	761
特別利益合計	761
税引前四半期純損失()	94,021
法人税、住民税及び事業税	1,729
法人税等調整額	214
法人税等合計	1,944
四半期純損失()	95,965

(第2四半期会計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期会計期間 (自 平成20年9月1日 至 平成20年11月30日)
売上高	335,991
売上原価	110,818
売上総利益	225,172
販売費及び一般管理費	223,978
営業利益	1,193
営業外収益	
受取利息	455
受取査定報酬	260
受取保管料	190
その他	214
営業外収益合計	1,120
営業外費用	
為替差損	2,194
その他	94
営業外費用合計	2,289
経常利益	24
特別利益	
未払配当金戻入益	761
特別利益合計	761
税引前四半期純利益	786
法人税、住民税及び事業税	944
法人税等調整額	33,744
法人税等合計	34,689
四半期純損失()	33,903

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年6月1日 至平成20年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失()	94,021
減価償却費	8,000
貸倒引当金の増減額(は減少)	497
賞与引当金の増減額(は減少)	47
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,225
受取利息及び受取配当金	1,931
為替差損益(は益)	2,190
売掛金の増減額(は増加)	8,055
オークション未収入金の増減額(は増加)	201,686
たな卸資産の増減額(は増加)	202,025
前渡金の増減額(は増加)	44,910
買掛金の増減額(は減少)	514
オークション未払金の増減額(は減少)	99,000
未収消費税等の増減額(は増加)	11,232
その他	36,086
小計	489,502
利息及び配当金の受取額	1,934
法人税等の支払額	10,040
営業活動によるキャッシュ・フロー	497,608
投資活動によるキャッシュ・フロー	
貸付けによる支出	31,282
定期預金の預入による支出	235,028
定期預金の払戻による収入	205,000
敷金の差入による支出	5,931
投資活動によるキャッシュ・フロー	67,241
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	60,182
配当金の支払額	143,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	203,372
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	768,222
現金及び現金同等物の期首残高	1,348,093
現金及び現金同等物の四半期末残高	579,870

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間損益計算書

区分	前中間会計期間 (自 平成19年6月1日 至 平成19年11月30日)	
	金額 (千円)	百分比 (%)
I 売上高		932,879 100.0
II 売上原価		218,760 23.5
売上総利益		714,118 76.5
III 販売費及び一般管理費		546,078 58.5
営業利益		168,039 18.0
IV 営業外収益		3,167 0.4
V 営業外費用		0 0.0
経常利益		171,207 18.4
VI 特別利益		— —
VII 特別損失		— —
税引前中間純利益		171,207 18.4
法人税、住民税及び事業税	74,071	
法人税等調整額	3,793	77,864 8.4
中間純利益		93,342 10.0

(2) 中間キャッシュ・フロー計算書

	前中間会計期間 (自 平成19年6月1日 至 平成19年11月30日)
区分	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	171,207
減価償却費	9,506
貸倒引当金の増加・減少 (△) 額	13,691
賞与引当金の増加・減少 (△) 額	△1,843
役員賞与引当金の増加・ 減少 (△) 額	△4,956
退職給付引当金の増加・ 減少 (額)	1,300
受取利息及び受取配当 金	△1,618
売掛金の増加 (△) ・減 少額	△2,100
オークション未収入金の 増加 (△) ・減少額	334,691
たな卸資産の増加 (△) ・減少額	31,683
前渡金の増加 (△) ・減 少額	98,403
オークション未払金の増 加・減少 (△) 額	△610,488
未払消費税の増加・減少 (△) 額	8,898
未収消費税の増加 (△) ・減少額	9,981
その他	△23,377
小計	34,980
利息及び配当金の受取 額	1,600
利息の支払額	0
法人税等の支払 (△) ・ 還付額	△125,571
営業活動によるキャッシ ュ・フロー	△88,930
II 投資活動によるキャッシ ュ・フロー	
定期預金への預入による 支出	△235,000
定期預金の満期払戻によ る収入	205,000
有形固定資産の取得によ る支出	△702
保証金新規差入による支 出	△650
投資活動によるキャッシ ュ・フロー	△31,353

	前中間会計期間 (自 平成19年6月1日 至 平成19年11月30日)
区分	金額 (百万円)
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	
株式の発行による収入	760
配当金の支払額	△144,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△143,824
Ⅳ 現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	△264,109
Ⅴ 現金及び現金同等物の期首残高	1,798,973
Ⅵ 現金及び現金同等物の中間期末残高	1,534,864

6. その他の情報

該当事項はありません。